



有機JAS認証事業者訪問記

豊後高田編

九重町有機農業推進協議会

意見交換会出席の報告

2023年度通常総会の報告

2022年度

新規有機JAS認証取得者の紹介

2022年度

JAS認証事業以外の主な事業の報告

有機JAS認証事業者訪問記

(豊後高田市編)

有機JAS認証事業者の認証取得後のアフターケア並びにフォローアップを目的に、第一弾として豊後高田市の若手認証事業者三者、ほのか農園、タルカリ農園、豊後高



田オーガニックファームを訪問しました。本訪問活動は、去る4月に開催された当研究会の通常総会において承認された今年度活動事業のひとつです。

ほのか農園
安東大介 さん

北九州市出身で、無農薬・無肥料栽培に関心を持ち、豊後高田市に移住、有機農家での農業研修を経て就農しました。

炭素循環型農法を実践し、無肥料栽培を目指しています。周辺に竹林が豊富にあるため、竹チップ化し、炭素循環型農法に利用できないか模索しています。

圃場は栽培に適さない水捌けの悪い圃場も多く、有機物を投入するな



どして土質の改良を行っています。

販路も徐々に拡大中で、炭素循環型農法で栽培したタマネギは甘くて美味しいと消費者から好評をいただいているとのことです。

タルカリ農園
酒井 誠 さん

京都府出身で、別府市の縁をもって豊後高田市に移住、有機農家での研修を経て就農しています。農園の名前「タルカリ」の由来はネパール語で「野菜」を意味し、ネパール滞在時を想い名付けたとのこと。

圃場は砂質土壌の土地が多く比較的栽培に適しています。豊後高田市有機農業推進協議会の会長も務められ、学校給食への有機食材の供給も検討しています。

安定した販売先が確保できており、生業としての有機農業を実践している認証事業者です。

豊後高田オーガニックファーム 斉藤貴博 さん

北海道出身で、自然豊かな温暖な地に住みたいとの希望から豊後高田市に移住しまし

た。有機JAS認証事業者の下での農業研修を経て独立しました。



圃場は酒井氏と同様に砂質土壌の場所が多く、比較的栽培に適しています。定

期的に土壌診断を行い、肥培管理の適正化にも努めています。栽培技術のスキルアップや作業の効率化には常日頃から注力しており、安定した販売先も確保できています。彼もまた有機農業を生業として実践している認証事業者です。

訪問した三つの認証事業者とも多忙にも関わらず丁寧に対応していただきました。三者とも他県からの移住者であり、豊後高田市が移住に適した地域であることがうかがえました。また、市役所の移住者支援も充実しているとの意見が聞かれました。

三者とも有機農業を生業としており、日々の栽培技術向上への情熱や消費者へ良いものを届けたいという細やかな心配りが、彼らの言葉から感じられました。

今回の認証事業者訪問は、当研究会としては初めての試みとなりました。忙しいな

かご対応下さいました認証事業者におかれましては、この紙面をお借りしてお礼申し上げます。また、今回は大分県地域農業振興課安全農業班の担当者も同行されたこともあり、より意義のある訪問になりました。

この訪問活動は、不定期に地域を変えて実施する計画です。この取組みが認証事業者のケア並びにフォローアップとなり、有機JAS認証の継続と推進につながることを期待してやみません。

(訪問者)

理事長 銚水 道雄
事務局長 河野 頼通



九重町有機農業推進協議会

意見交換会出席の報告

6月16日、九重町役場にて開催された有機農業意見交換会に出席しました。

この意見交換会は九重町有機農業推進協議会、九重町役場、九州農政局大分県拠点、大分県西部振興局、九重町町議会議員、そして当研究会といった多彩な関係機関から参加したものでした。

会議の冒頭では、九重町有機農業推進協議会の佐藤会長から、今回の意見交換会の目的と九重町における有機農業の現在の状況について説明が行われました。

続いて出席した各機関より現況の有機農業について説明がなされ、当研究会としては、所管する有機JAS認証事業者の現状報告と新規認証事業者の拡大に向けた課題などについて意見を述べました。

意見交換会では、農水省が令和3年5月

に「みどりの食料システム戦略」を策定し、令和4年4月には「みどりの食料システム法」が制定されたものの、国内における有機農業普及率は未だに1%未満と低い状況にあります。今後、九重町が国、県と連携し、有機農業の推進・拡大に取り組むためにはどのような施策が必要かというテーマで参加者から意見が発表されました。

それぞれの立場から多様な意見が出されましたが、地産地消、地産他消に関わらず有機農産物としての付加価値の認識向上が重要であるという共通の意見に集約されました。

国、県は有機農業の普及促進に係る国策としての支援制度の活用を促し、地元の市町村は普及に向けたビジョンを掲げ、それを先導していくことが重要であると、有機農業推進協議会の生産者からの意見発表がありました。

当研究会からは、新規就農者の有機農業への入口部分において、行政として取り組むべき具体的内容について提案を行いました

た。

このような有機農業に関する「意見交換会」という取組は、県内では初めての試みであり、当研究会の基本的な活動方針とも合致するものでした。今後も関係機関と協力して九重町の有機農業の推進に尽力していきたいと考えています。

また、九重町を起点として県内の他の市町村へ同様の取組が波及し、大分県全体で有機農業拡大推進の機運が醸成されることを期待したいと思います。

(出席 鎗水理事長、河野事務局長)



2023年度通常総会の報告

2023年4月22日(土)、大分県保険医会館3階大ホールにて2023年度通常総会を開催しました。

2020年より3年もの間続けられてきた新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた行動制限も緩和され、日常への回帰が期待される中での開催となりました。

会員の皆様におかれましては、12名の出席(委任・44名)となりました。

総会では、主催者を代表して理事長 鎗水道雄が挨拶を行い、続いて、御来賓の大分県農林水産部地域農業振興課長 吉止勝幸様よりご祝辞を賜りました。

2022年度活動報告、会計報告並びに監査報告、2023年度活動計画(案)、活動予算(案)、定款の改訂(案)等、提案された議案については、すべて承認されました。役員についてはの変更はありません。昨年度に引き続き表にお示しする役員体制にて

運用してまいります。今後とも当研究会の事業・活動に一層のご指導とご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

来年度の総会は、新型コロナウイルス禍が完全に終息し、多くの会員の方の出席による開催を願っています。当日ご多忙なところをご出席くださいましたご来賓、会員の皆様に心よりお礼申し上げます。

役職名	氏名
理事長	鎗水 道雄
副理事長	赤嶺 祐司
副理事長	北崎 佳範
理事	青井 朝輝
理事	深瀬 雅子
理事	古長 篤巳
理事(事務局長)	河野 頼通
監事	諫山 二郎
監事	太田 茂弘



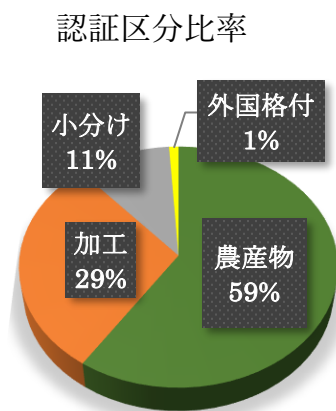
2022年度新規有機JAS認証取得者の紹介

2022年度は以下のとおり、新しく8名の認証事業者が誕生しました。

認証番号	認証事業者名	認証区分	主要品目	住所
0164	株式会社蓮	有機農産物	ニンニク	大分県玖珠町
0165	株式会社蓮	有機加工食品	黒ニンニク	大分県玖珠町
0166	株式会社後藤製菓	有機加工食品	生姜加工品	大分県白杵市
0167	OYASAIYA 菜	小分け業者	各種野菜	福岡県福岡市
0168	茅野文三	有機きのこ	原木しいたけ	大分県佐伯市
0169	財津満寿光	有機きのこ	原木しいたけ	大分県日田市
0170	株式会社清和ミネラル会	有機農産物	ベビーリーフ	熊本県山都町
0171	ほのか農園	有機農産物	多品目野菜	大分県豊後高田市
0172	大分県椎茸農業協同組合	外国格付表示業者	乾しいたけ	大分県大分市

2023年3月31日現在の認証事業者の状況は以下の通りです。

有機農産物 生産行程管理者	57件(内きのこ12件)
有機加工食品 生産行程管理者	28件(内きのこ11件)
小分け業者	10件
外国格付表示業者	1件
延べ認証事業者数	96件(重複認証含む)
実質認証事業者数	74件(重複認証含まず)



2022年度

JAS認証事業以外の主な事業の報告

■大分県委託事業

有機野菜広域出荷体制づくり支援事業

本事業は大分県からの委託事業で、大分県内の有機農家で構成する「おおいた有機野菜等生産出荷体制構築会議」という会議体を設置し、大分県内の有機野菜等の共同出荷に向けての体制づくりの基盤を構築してきました。

構築会議の各

委員、会員にて栽培技術検討会、組織加入促進検討会など、各種検討会議を開催し、共同出荷の在り方等を検討してきました。



栽培技術検討会

有機野菜生

産者としての位置付けのための有機JAS認証の取得推進活動については、認証取得見込者に対して有機JAS制度の概



オーガニック EXPO

要を説明するとともに、販路確保の一助となるよう有機野菜広域出荷体制への加入を推進しました。

また、消費者との交流、意見交換のため東京で開催されたオーガニックEXPOにも参加しました。関東市場における大分県の有機野菜についての消費動向を調査・集約でき、今後の活動方針の糧とすることができました。

今後は、有機生産者で構成する別組織の共同出荷体制設立準備室が大分県からの支援を受けながら販路の開拓を行うと共に物

流体制を確立し、共同出荷に向けた本格的な組織化を図る計画となっています。

長年の課題であった大分県の有機野菜の中央商圏への出荷がいよいよ現実となることが期待されます。

■佐伯市委託事業

有機農業相談員業務委託

昨年に引き続き佐伯市有機農業推進計を推し進めるため、有機農業相談員を派遣し、有機農業者の育成や有機農産物の学校給食への導入などを推進してきました。

また、佐伯市農政課有機農業推進係と連携し、新たに「佐伯市有機農産物独自認証制度」を制定し、今年度8件の事業者が独自認証を取得しました。

佐伯市は今年4月、第二次有機農業推進計画を策定・公開し、将来に渡り持続可能な街を創るための佐伯版SDGsを推進することとしており、市のスローガンである「さいきオーガニックシティ」の実現を目

指すこととしています。

本事業は3カ年計画となっております。今年度が最終事業年度となります。当研究会としましても昨年度にも増して協力し、佐伯市の有機農業の普及促進に寄与していきたいと考えています。



有機農業相談員の活動状況



■白杵市委託事業

ほんまもん農産物認証書類確認業務委託
白杵市ほんまもん農産物認証基準に基づき生産者が栽培期間中に使用する各種資材等について、その有機適合性の評価を書類確認業務として実施しました。

また、地域おこし協力隊として活動している農業者及び若手の自立営農者を対象に有機JAS説明会を開催し、白杵市と共同にて有機認証の取得を推進しました。

ほんまもん農産物認証の生産者は49者にも達し、また県内において有機JAS認証取得者が最も多い地域も白杵市です。今後も益々有機農業推進市として施策が期待されるところです。



若手農業者を対象とした有機JAS説明会

おおいた有機農業研究会 スタッフ

事務局長 河野 頼通

事務局員 後藤 真由美

食と農おおいた No.137 JUL.2023

【発行】NPO法人おおいた有機農業研究会

【T e l】097-567-2613

【F a x】097-567-2614

【Mail】oitayuki@po.d-b.ne.jp

【H P】<https://oitayuki.com/>



有機肥料のことなら何でもご相談ください。
土壌検査・施肥設計も致します。

(有)江島

大分県中津市山国町中摩
電話 0979-62-3178
FAX 0979-62-2927